

神無月を迎えて

分所長 高木 敏彦

今月は、霊界物語を聖師様がご口述を開始してから一〇〇年目になります。今一度、霊界物語の拝読を励行して研鑽を深めることが必要です。分所でもこれを機に拝読会の実施などを勧めていきたいと思えます。

ようやく、緊急事態宣言が解除されました。一月は碧南分所秋季大祭・慰霊祭を開催します。大勢の皆様の参拝をお待ちしています。

父(藤浦五郎)の思い出

齋藤 郷乃

父は私が二一歳の時に、五二歳で肝臓がんがもとで亡くなりました。その父の思い出をお話しさせて頂きます。

父は戦時中、豊橋の駐屯地へ衛生兵として行きましたけれど、色盲のため戦地に行かずに済んだようです。自宅に戻ってからは隣の家の唐箕屋さんの仕事をしたり、自宅で七輪のサナを作ったり又、百姓をしながら五郎の母親(かず)の実家の鬼福さんで鬼瓦の修業をしていました。その後、昭和三〇年頃より自営で鬼瓦の製造販売を営んでいましたが、昭和四〇年に名古屋港区の小学校の建物を移築して大きな工場を作り、そこに鬼瓦プレスを入れました。父が、体調を崩し将来を心配してプレスを入れたと思います。母やすとの家族を中心にした家内工業です。私も、外の仕事には就かず家の仕事を手伝っていました。

父の性格は社交的でそこら中に友人が多く、

話好きで隣近所の人を訪ねて来ては、仕事の手を休めてお茶菓子を食べながら四方山話に精出し、母(やす)によく叱られていました。人付き合いの良い父で、私も横でよくその話を聞いていました。農地改革の役もやっていて、油が淵の土手を作ったみたいです。

大本との出会いは、最初に入信された隣の長田さんの所で神谷照光さんが来られた時、父は後ろ向きにお話を聞いていましたが、その後ろ向きの肩に包帯を巻いている人が霊的に見えると言われ、父の兄嫁にあたる人が頭の手術をして失敗して亡くなったのでその人の事かと思ったそうです。昭和二六年五月入信。同じ頃入信された近所の神谷弘二さんご夫婦と五郎、やす、直のみで本部に参拝し、その時には二代様にご面会できたそうです。その後、碧南分苑に高須令三先生、神谷照光さん、高瀬順さんたちがよくお話をしに来てくれました。神谷さんは靈感のある人でよくお蔭話をしてくれました。

入信してからは、奥谷徳市さん、磯部正徳さん、散髪屋の藤浦さんなど互いの月次祭にお参りをするなど交流をしていました。また父は、碧南分苑の会計を担当していて(当時一〇〇世帯)奉仕金を持って稲沢の東海本苑に持参していて、私と風恵姉と一緒に電車に乗って行くのを楽しみにしていました。入信してからは仕事も真面目になり、人愛の愛善農法も勉強し、他の方にも指導していました。

父は楽器が好きで、二十歳の頃自分でバイオリンを買ってきて母親に叱られたそうです。雅楽の笙の笛(横笛)を吹いてお祭りの囃子方を

務め、指導もしていました。音感がとても良く、ハーモニカもよく吹いていて上手でした。大本に入信してからは、友人にも大本はまことの神様だから信じていると話をしていました。

昭和四十年に体調を崩し、九月に安城更生病院で手術、開腹をしましたが手遅れですぐ閉じたそうです。病気になつてからは佐藤分苑長さん(新川病院院長)がよく往診をしに家を訪ねてくれました。その年一月昇天五二歳でした。

残念ながら若くして亡くなりましたが、家族全員が大本の信仰を引継ぎ現在に至っていることは誇れることです。

主な行事予定

- 一〇月一〇日(日) 午後一時半より
碧南分所月次祭 担当第三班
- 一〇月一七日(日) 午前一〇時より
三河本苑秋季大祭・祖霊慰霊大祭
- 一〇月一八日(月) 午後七時より
霊界物語全国一斉拝読会
- 十一月四日(日) 午前一〇時半より
碧南分所秋季大祭・合同慰霊祭

一〇月の誕生者

おめでとうございます!

- 澤田多鶴子 一〇月二日 坂部 影紀 一〇月四日
- 鈴木勝一郎 一〇月五日 岡本 眞 一〇月一四日
- 澤田鼓太郎 一〇月一三日 生田あき子 一〇月二〇日
- 榊原 武彦 一〇月二〇日 天内緋佳里 一〇月二二日
- 粟津 誠 一〇月二四日